

クねずみ

宮沢賢治
みやざわけんじ

クという名前のねずみがありました。たいへん高慢ごうまんでそれにそねみ深くって、自分をねずみの仲間の一番の学者とっていました。ほかのねずみが何か生意気なことを言うのとエヘンエヘンと言うのが癖くせでした。

クねずみのうちへ、ある日、友だちのタねずみがやって来ました。

さてタねずみはクねずみに言いました。

「今日は、クさん。いいお天気です。」

「いいお天気です。何かいいものを見つけましたか。」

「いいえ。どうも不景気ですね。どうでしょう。これからの景気は。」

「さあ、あなたはどう思いますか。」

「そうですね。しかしだんだんよくなるのじゃないでしょうか。オウベイのキンユウはしだいにヒツパクをテイしたそう……。」

「エヘン、エヘン。」いきなりクねずみが大きなせきばらいをしましたので、タねずみはびっくりして飛びあがりました。クねずみは横を向いたまま、ひげを一つぴんとひねって、それから口の中で、

「ヘイ、それから。」と言いました。

タねずみはやっと安心してまたおひざに手を置いてすわりました。

クねずみもやっとまっすぐを向いて言いました。

「先せんころの地震にはおどろきましたね。」

1 「全くです。」

2 「あんな大きいのは私もはじめてですよ。」

3 「ええ、ジヨウカドウでしたねえ。シンゲンはなんでもトウケイ四十二度二分ナニイ……。」

4 「エヘン、エヘン。」

5 クねずみはまたどなりました。

6 タねずみはまた面くらいましためんが、さっきほどではありませんでした。

7 クねずみはやっと気を直して言いました。

8 「天気もよくなりましたね。あなたは何かうまい仕掛けをしておきましたか。」

9 「いいえ、なんにもしておきません。しかし、今度天気が長くつづいたら、私は少し畑の方へ出てみようと思うんです。」

10 「畑には何かいいことがありますか。」

11 「秋ですからとにかく何かこぼれているだろうと思います。天気さえよければいいのですがね。」

12 「どうでしょう。天気はいいでしょうか。」

13 「そうですね、新聞に出ていましたが、オキナワレットウにハッセイしたテイキアツは次第にホクホクセイのほうへシンコウ……。」

14 「エヘン、エヘン。」クねずみはまたいやなせきばらいをやりしたので、タねずみはこんどと
15 いうこんどはすっかりびっくりして半分立ちあがって、ぶるぶるふるえて目をパチパチさせて、
16 黙りこんでしまいました。
17
18

クねずみは横の方を向いて、おひげをひっぱりながら、横目でタねずみの顔を見ていましたが、ずうっとしばらくたってから、あらんかぎり声をひくくして、

「へい。そして。」と言いました。ところがタねずみはもうすっかりこわくなって物が言えませんでしたから、にわかにつていねいにおじぎをしました。そしてまるで細かいかすれた声で、

「さよなら。」と言ってクねずみのおうちを出て行きました。

クねずみは、そこであおむけにねころんで、

「ねずみ競争新聞」を手にとってひろげながら、

「ヘッ。タなどはなっていないんだ。」とひとりごとを言いました。

さて、「ねずみ競争新聞」というのは実にいい新聞です。これを読むと、ねずみ仲間の競争のことはなんでもわかるのでした。ペねずみが、たくさんとうもろこしのつぶをぬすみためて、大砂糖持ちのパねずみと意地ばりの競争をしていることでも、ハねずみヒねずみフねずみの三匹のむすめねずみが学問の競争をやって、比例の問題まで来たとき、とうとう三匹とも頭がペチンと裂けたことでも、なんでもすっかり出ているのでした。

さあ、さあ、みなさん。失礼ですが、クねずみのきょうの新聞を読むのを、お聞きなさい。

「ええと、カマジン国の飛行機、プハラを襲うと。なるほどえらいね。これはたいへんだ。まあしかし、ここまでは来ないから大丈夫だ。ええと、ツエねずみの行くえ不明。ツエねずみというのはあの意地わるだな。こいつはおもしろい。

天井裏街一番地、ツエ氏は昨夜行くえ不明となりたり。本社のいちはやく探知するところによ

1 ればツエ氏は数日前よりはりがねせい、ねずみとり氏と交際を結びおりしが一昨夜に至りて両
2 氏の間に多少感情の衝突ありたるもののごとし。台所街四番地ネ氏の談によれば昨夜もツエ氏
3 は、はりがねせい、ねずみとり氏を訪問したるのごとし、と。なお床下通り二十九番地ポ氏は、昨
4 夜深更より今朝にかけて、ツエ氏並びにはりがねせい、ねずみとり氏の激しき争論、時に格闘の
5 声を聞きたりと。以上を総合するに、本事件には、はりがねせい、ねずみとり氏、最も深き関係を
6 有するがごとし。本社はさらに深く事件の真相を探知の上、大いにはりがねせい、ねずみとり氏
7 に筆誅ひっちゅうを加えんと欲す。と。ははは、ふん、これはもう疑いもない。ツエのやつめ、ねずみとり
8 に食われたんだ。おもしろい。そのつぎはと。なんだ、ええと、新任ねずみ会議員テ氏。エヘン、
9 エヘン。エン。エツヘン。ヴェイヴェイ。なんだちくしょう。テなどがねずみ会議員だなんて。
10 えい、おもしろくない。おれでもすればいいんだ。えい。おもしろくもない、散歩に出よう。」

1 そこでクねずみは散歩に出ました。そしてプンプンおこりながら、天井裏街の方へ行く途中で、
2 二匹のむかでが親孝行の蜘蛛くもの話をしているのを聞きました。

3 「ほんとうにね、そうはできないもんだよ。」

4 「ええ、ええ、全くですよ。それにあの子は、自分もどこからだが悪いんですよ。それなのに
5 ね、朝は二時ごろから起きて菓を飲ませたり、おかゆをたいてやったり、夜だって寝るのはいつ
6 もおそいでしょう。たいてい三時ごろでしょう。ほんとうにからだがやすまるってないんでしょ
7 う。感心ですねえ。」

8 「ほんとうにあんな心がけのいい子は今ごろあり……。」

9 「エヘン、エヘン。」と、いきなりクねずみはどなって、おひげを横の方へひっぱりました。

10 むかではびっくりして、はなしもなにもそこそこに別れて逃げて行ってしまうました。

11 クねずみはそれからだんだん天井裏街の方へのぼって行きました。天井裏街のガランとした
12 広い通りでは、ねずみ会議員のテねずみがもう一ぴきのねずみとはなしていました。

13 クねずみはこわれたちり取りのかげで立ちぎきをしておりました。

14 テねずみが、

15 「それで、その、わたしの考えではね、どうしてもこれは、その、共同一致、団結、和睦わぼくの、セ
16 イシンで、やらんと、いかなね。」と言いました。

17 クねずみは、

18 「エヘン、エヘン。」と聞こえないようにせきばらいをしました。相手のねずみは、「へい。」

1 と言って考えているようです。

2 テねずみははなしをつづけました。

3 「もしそうでないとすると、つまりその、世界のシンポハッタツ、カイゼンカイリヨウがそのつ
4 まりテイタイするね。」

5 「エン、エン、エイ、エイ。」クねずみはまたひくくせきばらいをしました。

6 相手のねずみは、「へい。」と言って考えています。

7 「そこで、その、世界文明のシンポハッタツ、カイリヨウカイゼンがテイタイすると、政治はも
8 ちろんケイザイ、ノウギョウ、ジツギョウ、コウギョウ、キョウイク、ビジュツそれからチョウ
9 コク、カイガ、それからブンガク、シバイ、ええと、エンゲキ、ゲイジュツ、ゴラク、そのほかタ
10 イイクなどが、ハッハッハ、たいへんそのどうもわるくなるね。」テねずみはむつかしいことを
11 あまりたくさん言ったので、もう愉快でたまらないようでした。クねずみはそれがまたむやみ
12 にしゃくにさわって、「エン、エン。」と聞こえないように、そしてできるだけ高くせきばらいを
13 やって、にぎりこぶしをかためました。

14 相手のねずみはやはり「へい。」と言っております。

15 テねずみはまたはじめました。

16 「そこでそのケイザイやゴラクが悪くなるというと、不平を生じてブンレッツを起こすというケツ
17 カにホウチャクするね。そうなるのは実にそのわれわれのシンガイでフホンイであるから、や
18 はりその、ものごとは共同一致団結和睦のセイシンでやらんといかんね。」

1 クねずみはあんまりテねずみのことばが立派で、議論がうまくできているのがしゃくにさわって、とうとうあらんかぎり、

2 「エヘン、エヘン。」とやってしまいました。するとテねずみはぶるるっとふるえて、目を閉じて、小さく小さくちぢまりましたが、だんだんそろりそろりと延びて、そおっと目をあいて、それから大声で叫びました。

3 「こいつは、ブンレッツだぞ。ブンレッツ者だ。しばれ、しばれ。」と叫びました。すると相手のねずみは、まるでつぶてのようにクねずみに飛びかかってねずみの捕り縄なわを出して、クルクルしばってしまいました。

4 クねずみはくやくしてくやくてなみだが出ましたが、どうしてもかないそうがありませんでしたから、しばらくじっとしておりました。するとテねずみは紙切れを出してするするするっと何か書いて捕り手のねずみに渡しました。

5 捕り手のねずみは、しばらくしてごろごろがっているクねずみの前に来て、すてきにおごそかな声でそれを読みはじめました。

6 「クねずみはブンレッツ者によりて、みんなの前にて暗殺すべし。」クねずみは声をあげてチュウチュウ泣きました。

7 「さあ、ブンレッツ者。あるけ、早く。」と、捕り手のねずみは言いました。さあ、そこでクねずみはすっかり恐れ入ってしおしおと立ちあがりました。あっちからもこっちからもねずみがみんな集まって来て、

1 「どうもいい気味だね。いつでもエヘンエヘンと言ってばかりいたやつなんだ。」

2 「やっぱり分裂していたんだ。」

3 「あいつが死んだらほんとうにせいせいするだろうね。」というような声ばかりです。

4 捕り手のねずみは、いよいよ白いたすきをかけて、暗殺のしたくをはじめました。

5 その時みんなのうしろの方で、フウフウと言うひどい音が聞こえ、二つの目玉が火のように
6 光って来ました。それは例の猫大^{ねこたいしやう}将でした。

7 「ワッ。」とねずみはみんなちりぢり四方に逃げました。

8 「逃がさんぞ。コラッ。」と猫大將はその一匹を追いかけてましたが、もうせまいすきまへずうつ
9 と深くもぐり込んでしまったので、いくら猫大將が手をのばしてもとどきませんでした。

1 猫大将は「チェッ。」と舌打ちをして戻って来ましたが、クねずみのただ一匹しばらく残っているのを見て、びっくりして言いました。

2 「貴様はなんと言うものだ。」クねずみはもう落ち着いて答えました。

3 「クと申します。」

4 「フ、フ、そうか、なぜこんなにしているんだ。」

5 「暗殺されるためです。」

6 「フ、フ、フ。そうか。それはかあいそうだ。よしよし、おれが引き受けてやろう。おれのうちへ来い。ちょうどおれのうちでは、子供が四人できて、それに家庭教師がなくて困っているところなんだ。来い。」

7 猫大将はそのそ歩きだしました。

8 クねずみはこわごわあとについて行きました。猫のおうちはどうもそれは立派なもんでした。紫色の竹で編んであって中はわらや布きれでホクホクしていました。おまけにちゃあんとご飯を入れる道具さえあったのです。

9 そしてその中に、猫大将ねこたいしょうの子供が四人、やっと思をあい、にゃあにゃあと鳴いておりました。

10 猫大将は子供らを一つずつなめてやってから言いました。

11 「お前たちはもう学問をしないといけない。ここへ先生をたのんで来たからな。よく習うんだよ。決して先生を食べてしまったりしてはいかんぞ。」

1 子供らはよろこんでニヤニヤ笑って口々に、

2 「おとうさん、ありがとう。きつと習うよ。先生を食べてしまったりしないよ。」と言いました。
3 クねずみはどうも思わず足がブルブルしました。

4 猫大将が言いました。

5 「教えてやってくれ。おもに算術をな。」

6 「へい。しょう、しょう、承知いたしました。」とクねずみが答えました。

7 猫大将はきげんよくニャーと鳴いてするりと向こうへ行ってしまうました。

8 子供らが叫びました。

9 「先生、早く算術を教えてください。先生。早く。」

10 クねずみはさあ、これはいいよ教えないといかんと思いましたので、口早に言いました。

11 「一に一をたすと二です。」

12 「そうだよ。」子供らが言いました。

13 「一から一を引くとなんにもなくなります。」

14 「わかったよ。」

15 子供らが叫びました。

16 「一に一をかけると一です。」

17 「きまってるよ。」と猫の子供らが目をりと張ったまま答えました。

18 「一を一で割ると一です。」

1 「それでいいよ。」と猫の子供らがよろこんで叫びました。そこでクねずみはすっかりのぼせてしまいました。

2 「一に二をたすと三です。」

3 「合ってるよ。」

4 「一から二を引くと……」と言おうとしてクねずみは、はっとつまってしまいました。
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000

「一から二は引かれないよ。」

クねずみはあんまり猫の子供らがかしこいので、すっかりむしゃくしゃして、また早口に言いました。そうでしょう。クねずみはいちばんはじめの一に一をたして二をおぼえるのに半年かかったのです。

「一に二をかけると二です。」

「そうともさ。」

「一を二で割ると……。」クねずみはまたつまってしまいました。すると猫の子供らはまた一度に声をそろえて、

「一割る二では半分だよ。」と叫びました。

クねずみはあんまり猫ねこの子供らの賢いのがしゃくにさわって、思わず「エヘン。エヘン。エイ。エイ。」

とやりました。すると猫の子供らは、しばらくびっくりしたように、顔を見合わせていましたが、

1 やがてみんな一度に立ちあがって、

2 「なんだい。ねずめ、人をそねみやがったな。」と言いながらクねずみの足を一ぴきがつづつ
3 かじりました。

4 クねずみは非常にあわててばたばたして、急いで「エヘン、エヘン、エイ、エイ。」とやりまし
5 たがもういけませんでした。

6 クねずみはだんだん四方の足から食われて行って、とうとうおしまいに四ひきの子猫は、クね
7 ずみの胃の腑^ふのところ^{ところ}で頭をコツンとぶっつけました。

8 そこへ猫大將が帰って来て、

9 「何か習ったか。」とききました。

10 「ねずみをとることです。」と四ひきがいっしょに答えました。

底本：「童話集銀河鉄道の夜他十四編」谷川徹三編、岩波文庫、岩波書店

1951（昭和26）年10月25日第1刷発行

1966（昭和41）年7月16日第18刷改版発行

2000（平成12）年5月25日第71刷発行

底本の親本：「宮沢賢治全集第八巻」筑摩書房

1956（昭和31）年10月

入力：のぶ

校正：鈴木厚司

2003年8月3日作成

2008年2月29日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、<http://www.aozora.gr.jp/>、<http://www.aozora.gr.jp/>、<http://www.aozora.gr.jp/>で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。